

コロナ禍における
学生・教職員にとっての
「大学」とは



日 本 大 学

コロナウイルスが未だに終息せず、
後期もオンライン授業が続いています。



特に今年入学した1年生や編入生は学校に通学することなく1年が経ってしまおうとしています。

そんな中家で授業を受けていると「思っていた大学生活と違う」、「大学ってそもそも何だろう」といった疑問が生まれ悩んでいる学生が多くいると思います。



また、教員の立場からすればオンライン授業で学生の顔が見えない事などから、一人で講義をしているようで教え甲斐を感じないなどと思う教授も多いようです。



このようにコロナ前とコロナ禍ではみなさんにとっての「**大学**」の**意義**が変わってしまいました。

今回はこれをテーマにコロナ前とコロナ禍の「大学」とは何かを学生、教員の両者の立場から見ていきます。



コロナ前

学生視点

大学とは…

- ・ 挑戦して成功する場
- ・ 経験を積んで自分を深める場

…表現は色々だったが、全体的に勉強、サークル、人間関係等を通じて様々なことに挑戦することができていたという意見が多かった。

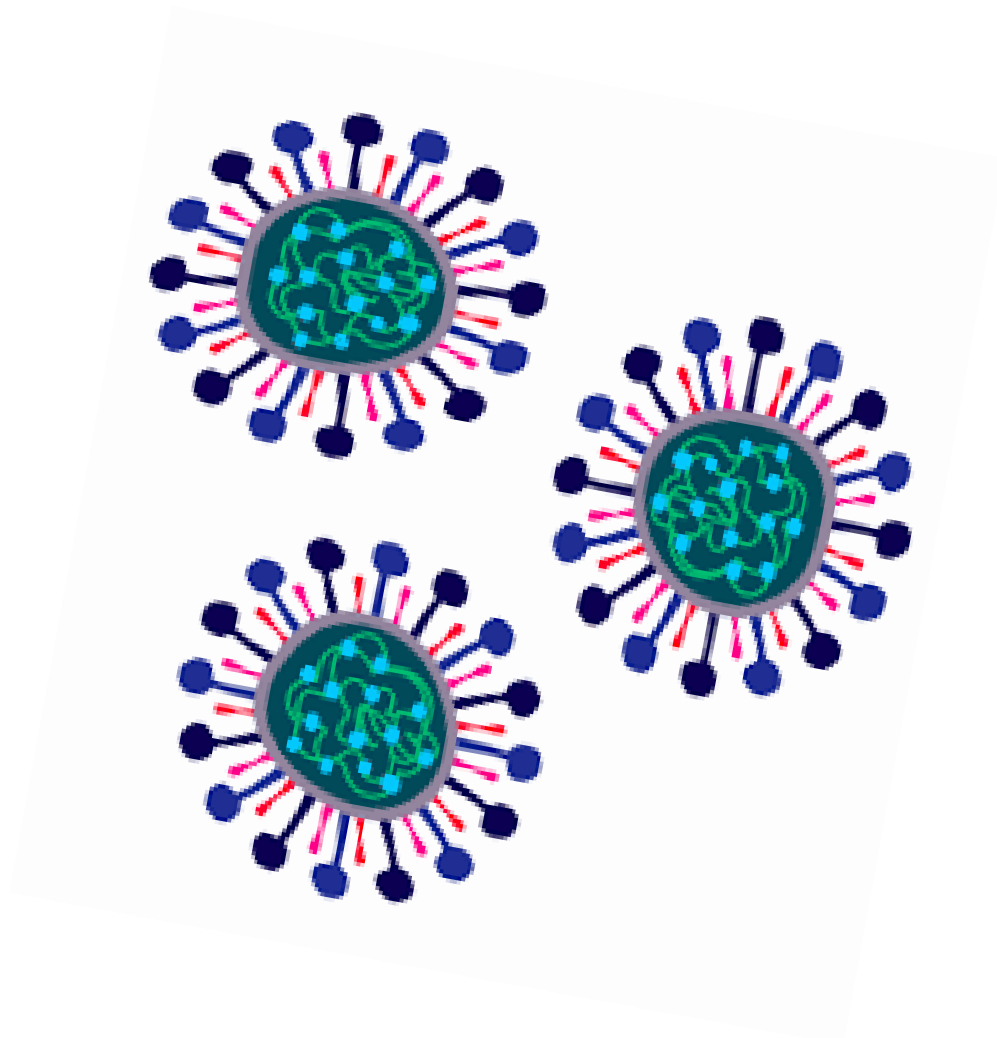
教員視点

大学とは…

- ・ 知識を後世に残す場所
- ・ 後継の研究者を育てる場所
- ・ 学生から刺激を受ける場所

…表現が様々だったが主に教員学生双方に成長し学びを深め受け継いでいく場所であったという意見が多かった。

コロナ禍



学生視点

大学とは…

- ・ 自分の気持ちの強さが
試される所
- ・ 良くも悪くも自分次第
- ・ 学習するためのツール
- ・ 課題をこなすだけの場所

…全体的にマイナスな意見が多かった。講義がオンデマンド形式の学生も多いため、大学を勉強するための場所であると考えている人が多く見受けられた。大学が無味乾燥なものになってしまっている。

教員視点

大学とは…

- ・ 顔も知らない学生に
講義を行う場
- ・ 研究で海外に行けなくなった
- ・ ITスキルを高めるきっかけ
- ・ 授業の準備に手間がかかる

…全体的にマイナスな意見が多かった。講義が新しい方式に変わったため IT スキルを高める必要性や毎講義の準備が大変になった。

以上のように、

全体的にコロナ禍の大学に対して良いイメージを持っている学生は少ないことがわかりました。

今後、コロナウイルスが続きオンライン授業がまだまだ続くかもしれません。

そうなった場合、大学にマイナスなイメージを持っている学生が多いという状況は、教職員にも学生にも好ましくないと言えます。よって、このような状況を是正するためにはどのように意識や環境を改善していけばよいかを考えていく必要があると思います。そのためには一人一人が現状に甘んじず、考えることをやめないことが重要です。この報告書が少しでもその役に立つことを願っています。